Waseda Vision 150 国際学術院（日本語教育研究科）の将来構想の進捗状況報告

１．2018 年度報告

（１）入試関連（Waseda Vision 150 核心戦略１関連）
－2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況等－

① 「海外指定大学推薦入試制度」の運用開始

海外の大学から優秀な学生を受け入れる「海外指定大学推薦入試制度」の運用を開始し，初年度である 2018 年度には３大学（大連外国語大学，天津外国語大学，國立臺灣大學）から，３名の留学生を修士課程に受け入れた。

② 「現職社会人コース」の運用開始

学校や行政機関において日本語教育を担う人材を育成することを目的とした「現職社会人コース」の運用を開始したが，2018 年度には出願者がいなかった。本コースは，学校や行政機関の専任教職員を対象とし，１年次は職場を離れて大学院で学び，２年次は所属する職場に戻り，日本語教育に係る実践を行い２年間で修士を修了するコースである。

③ 入試広報の展開

全学で行っている大学院入試説明会（６月）に参画した。あわせて，研究科独自の入試説明会を７月と１月に開催し，それぞれ 159 名と 128 名の参加者を得た。入試説明会などで配付する研究科パンフレットの内容と体裁を抜本的に見直し，カリキュラムなどを図式化し授業風景などの写真を多用することによって，よりビジュアルに訴えるものとし，現役学生の生の声を掲載することによって，より受験を考える人びとに届くことを目指すものとなった。また，WEB サイトを全面的に見直し、コンテンツをさらに充実させるほか，広告出稿媒体についても費用対効果などの点から全面的に見直しを行った。

④ 入試制度の見直し

世界中の，日本語教育を志す優秀な学生（日本人，留学生双方を含む）が，より受験しやすい入試制度となることを目指した。具体的には，「国費・入試ＷＧ」を立ちあげ，設立以来 18 年 36 学期分のデータを踏まえた集中的な討議を行い，入試制度の見直しを行っている。とくに，日本政府国費留学生およびそれに準じる公的な奨学金を持った優秀な学生の確保が喫緊の課題である。

（２）教育関連（Waseda Vision 150 核心戦略２、３、４関連）
－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況等－

① 教育指導体制の強化

昨年度までに見直した学生指導体制の強化を，引き続き実施した。具体的には，修士課程／博士後期課程の「学生心得」の改訂，複数指導体制の十全な実施を通じた研究指導体制の充実，および，研究倫理教育のさらなる充実，教員間の連携の強化である。修士課程においては，これまでの「演習」「中間発表」「合同ゼミ」のありかたを見直し，改善に努めた。博士後期課程においては，「博士課程研究ポートフォリオ」をさらに充実させ，学生の個別の状況に寄り添った指導をおこなった。これによって生まれた研究成果等は日研紀要，早稲田日本語教

育学会，研究会等で数多くが発表された。

② キャリア支援のための正課外活動
キャリア支援のための活動としては，「日研ひろば」「キャリアセミナー：ようこそ先輩」といった活動を定期的に行った。これら一連の活動によって，院生が自主的，かつ主体的に，自身のキャリア形成に取り組む姿勢が醸成された。

③ カリキュラムの全面的な見直し
日本語教育学の進化・発展，日本語教育を取りまく社会的ニーズの変容、入学者属性の変化などに対応し，2001 年度の研究科設立時に策定された授業カリキュラムを大きく見直しを行うこととした。そのための「カリキュラム検討委員会」において，2020 年度から新しいカリキュラム体制に移行するための準備に着手した。

④ ノンディグリープログラムの拡充
一般市民を対象に土曜日午前（年あたり全 20 数週開講）に開講している「日本語教育学公開講座」や、同午後に特定のテーマを定めて実施する実践ワークショップ，「オンデマンド講座」について，世界各地で教えている現職日本語教師のニーズにあった設計になるよう，改編，拡充に着手した。

⑤ 生涯教育への貢献
学校や行政機関において日本語教育を担う人材を育成することを目的とした「現職社会人コース」の運用を開始したが，2018 年度には出願者がいなかった。本コースは，学校や行政機関の専任教職員を対象とし，１年次は職場を離れて大学院で学び，２年次は所属する職場に戻り，日本語教育に係る実践を行い２年間で修士を修了するコースである。

（３）研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略７、９関連）
－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況等－

① 訪問学者，リサーチフェローの受け入れ
国際的な研究協力推進の一環として，2018 年度には訪問学者 8 名，リサーチフェロー2 名，リサーチインターン 2 名、合計 12 名を受け入れた。

② 日本語教育研究センター（CJL）との連携
日本語教育研究センターとの連携を維持し、全学の日本語教育の支援体制の充実を図った。具体的には，両箇所共同で，グローバルエデュケーションセンターの副専攻「日本語教育学/マルチリテラシーズ」を開講した。

③ グローバルエデュケーションセンター（GEC）との連携
CJL と連携し，GEC の副専攻科目「日本語教育学/マルチリテラシーズ」を開講し，全学の学部生等への教育に貢献した。同副専攻の 2018 年度修了生は 24 名であり，GEC 副専攻において最多の修了生となっている。また，数多くの現役生，修了生がライティングセンターのチューター，指導員として勤務し，全学のアカデミックライティングの教育に貢献した。

（４）国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略８関連）
－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等－

① 「海外展開グランドデザイン」の策定

研究科の今後の世界展開を確実なものにするために，特別委員会(WG)を組織し，「海外展開グランドデザイン」を策定した。具体的には，早稲田から海外へ派遣する「派遣交換留学（大学間協定・箇所間協定)」，「海外実践インターン」，「派遣アシスタント・インターン」の制度をさらに拡大，拡張させることにより日研の現役学生，修了生が海外の日本語教育機関に派遣される機会をさらに充実させた。とくに，日本政府国費留学生およびそれに準じる公的奨学金の奨学生を持った優秀な学生の確保が喫緊の課題である。

② 「海外実践」科目の新設

海外の協定大学の日本語学科等において約１学期間（３～４ヵ月間），アシスタントなどの立場で日本語教育の実践を学べる科目を新設し，運用を開始した。派遣中は日本語教育研究科の「実践研究 17」という正規科目に履修登録をし，早稲田大学の授業担当者および派遣先大学担当者双方の指導のもと，日本語教育の実践に従事する。初年度である 2018 年度秋学期には４名の学生が４つの大学（カーロリ大学（ハンガリー），日越大学（ベトナム），ベオグラード大学（セルビア），ミュンヘン大学（ドイツ））に派遣され，多様な海外実践を積むことができた。また，このプログラムについては，一般社団法人尚友倶楽部の助成により，渡航費，滞在費にあてられる奨学金を得ている。

（５）その他
－（１）～（４）に該当しない、学術院独自の戦略・プロジェクト等－

① 教育・総合科学学術院との協働・連携強化

これまで議論を続けてきた日研と教育・総合科学学術院との協働・連携強化については，教育学部が構想する「サブメジャープログラム」が確定したことを受け，さらに検討を続けた。その結果，研究科の限られた人的リソースは，「学術的副専攻」となり GEC 全学共通副専攻をより拡大・充実させるべきという結論に達し，見送ることとなった。

２．2019 年度計画

（１）入試関連（Waseda Vision 150 核心戦略１関連）
－2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画－

① 「海外指定大学推薦入試制度」の拡充
海外の大学から優秀な学生を受け入れる「海外指定大学推薦入試制度」の運用を，引き続き進める。あわせて，現在３つの国と地域，８大学である海外指定大学の拡充を検討する。

② 「海外指定大学特別選考」の見直し
海外の大学の優秀な３年次生を受け入れる「海外指定大学特別選考」が，より効果的に機能するよう，広報，対象大学の見直しなどを含めて，全面的に見直す。

③ 「現職社会人コース」の広報強化
学校や行政機関において日本語教育を担う人材を育成することを目的とした「現職社会人コース」について，より広く存在を知ってもらえるよう広報を強化する。

④ 入試広報の展開
全学で行っている大学院入試説明会に，引き続き参画する。研究科独自の入試説明会について，受験生が併願を考える他大学の入試スケジュールなどを考慮し，開催時期を見直す。WEB サイトの見直し，コンテンツの充実，広告出稿媒体の見直しについても，引き続き取り組む。

⑤ 入試制度の見直し
2018 年度に立ちあげた「国費・入試ＷＧ」が中心となり，引き続き入試制度の見直しに取り組む。

（２）教育関連（Waseda Vision 150 核心戦略２、３、４関連）
－グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画－

① 教育指導体制の強化
昨年度に引き続き，教育指導体制の強化に取り組む。カリキュラム検討委員会が中心となり，これまでの「演習」「中間発表」「合同ゼミ」のありかたを見直し，よりよい形態，方法を見出す。

② キャリア支援のための正課外活動
キャリア支援のための正課外活動を引き続き，開催する。

③ カリキュラムの全面的な見直し
2020 年度から新しいカリキュラム体制に移行するための準備を終える。また，現役学生にとって不利益にならないよう，十全な事前説明会，履修指導などを行う。

④ アカデミックスキル向上のための教育活動
修士論文，博士論文を執筆するためのアカデミックスキルを向上させるため，研究倫理や引用のルールなどを集中的に学べる研修会を実施する。

⑤ ノンディグリープログラムの拡充
昨年度に引き続き，「日本語教育学公開講座」，「実践ワークショップ」、「オンデマンド講座」の改編，拡充に取り組む。

（３）研究関連（Waseda Vision 150 核心戦略７、９関連）
－研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画－

① 訪問学者，リサーチフェローの受け入れ
昨年度に引き続き，訪問学者，リサーチフェローの受け入れに積極的に努める。

② 日本語教育研究センター（CJL）との連携
昨年度までと同様，日本語教育研究センターと連携し，全学の日本語教育の充実に貢献する。

③ グローバルエデュケーションセンタ（GEC）との連携
「学術的副専攻」として新規開設されるGEC副専攻科目「日本語教育学」を，責任箇所として担当する。また，現役生，修了生がライティングセンターのチューター，指導員として勤務できるよう，ライティングセンターと連携し，説明会などを開催する。

（４）国際関連（Waseda Vision 150 核心戦略８関連）
－派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等－

①「海外展開グランドデザイン」を踏まえた海外展開
2018 年度に策定した「海外展開グランドデザイン」を踏まえ，「派遣交換留学（大学間協定・箇所間協定)」，「海外実践インターン」，「派遣アシスタント・インターン」の制度をさらに拡大，拡張させることを目指す。

②「海外実践」科目の維持，充実
2018 年度に開始した「海外実践」科目について，1 年間の実績を踏まえて振り返りを行い，制度の維持，派遣先大学の拡大を目指す。このプログラムについては，現在，一般社団法人尚友倶楽部の助成により，渡航費，滞在費にあてられる奨学金を得ており，毎年最大５名の派遣人数もこの助成金額に負うところが大きい。2019 年度には，学内の各種助成金などとの併用を検討することにより，派遣人数の拡大について可能性を探る。

以 上